



開業当初からの 1000 形（桜木～小倉台）

1000形

2両編成
28両

1988年の千葉都市モノレール開業時に導入された車両。

湘南モノレール 400 形を元に 15m 車体にロングシートという陣容で登場。

以後、路線延長の度に増備され、1999年の千葉～県庁前間開業まで 1 次車から 4 次車まで、20 編成 40 両が製造されました。

主回路制御方式は抵抗制御で、製造は前述のとおり全車両が三菱重工業。

11年にわたり 4 次車まで増備された関係で、時期により改良がおこなわれており、

見た目でもわかりやすい変更点としては、前述の車いすスペースや、3 次車（1025-1026 編成：13 編成）以降の編成は方向幕（行先字幕）が LED 式となり、全面だけでなく側面にも行先表示が行えるようになっています。



後期車両は方向幕が LED 式（千城台）

穴川駅 あながわ

千葉起点
3.4km

無人駅



歩道橋と一体化した穴川駅

天台を出てしばらくすると、進路を東寄りに変えて穴川に到着です。

住宅街の中にあり、京葉道路の渋滞の名所、穴川インターチェンジのほど近く、また稲毛区役所へはJR稲毛駅よりこちらが便利。

穴川という名前ですが、稲毛区の穴川町と園生町の境にあり穴川の中心は稲毛区役所のあたりを指すようです。



ホーム

駅舎は2号線標準のものながら、交差点の真上に駅が作られたため歩道橋と一体化した大掛かりな駅舎になっています。

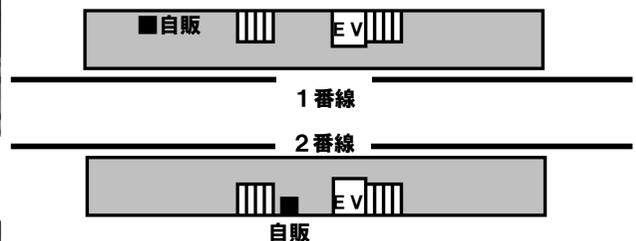
ホームは2面2線の配線で、もちろんエレベーター完備という陣容です。

駅付近の国道126号線上に穴川駅前バス停があり、稲毛駅行きの京成バスが頻発しています。

千城台→



駅名板



千葉公園



綿打池とボート

千葉公園は、千葉市の中心地、千葉駅周辺にある巨大な都市公園です。

元々は、1908年（明治41年）に大日本帝国陸軍が鉄道連隊を開設したことに自始まり、その後津田沼に鉄道第二連隊を設けたことから千葉にある鉄道連隊は、鉄道第一連隊となっています。

進軍に必要な鉄道の建設、保守、さらには線路の破壊活動などの演習場としてこの地を利用していました。



千葉公園駅の近くにあるトンネル演習跡

また、ここから四街道方面や、穴川や京成線の実籾駅付近を経て津田沼、さらに松戸までの演習線が建設され、現在は一部が営業用に改修され新京成線として使われています。

その後終戦を迎え、この跡地は平和な時代になると1946年に戦災復興計画として都市公園として改装されることになり、

以後ボート池（綿打池）や野球場やサッカー場、体育館なども整備され、市民の憩いの場として現在に至っています。

現在でも、千葉公園内やその周辺では鉄道連隊の演習施設の名残を多く見ることができ、荒木大尉の戦死を記念した荒木山と呼ばれる丘や、トンネル建設演習のトンネルアーチや橋梁建設の演習の橋脚などが残っており、鉄道連隊の面影を今に伝えています。



綿打池の近くに残る橋脚